

## トビウオ通信 (R4 第6号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《令和4年度 第2回 日本海スルメイカ漁況予報》

令和4年7月29日に国立研究開発法人 水産研究・教育機構より「2022年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>1)</sup>」が発表されました。本予報は当センターを含む水産関係研究機関で検討し、同機構水産資源研究所が取りまとめたものです。

今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

#### 今後の見通し(令和4年8月~12月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海(道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域)

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

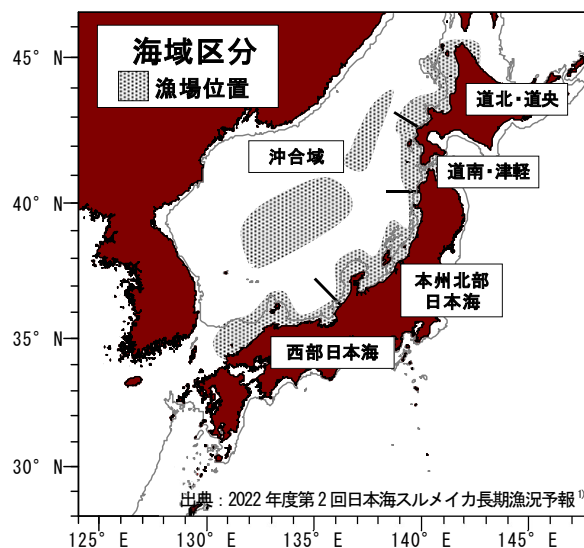
対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

##### (1) 全体のポイント

今期の日本海全体の来遊量は前年および近年平均を下回る。

##### (2) 漁場ごとのポイント

- ・ 道北・道央では今期前半は前年並みで近年平均を下回る。
- ・ 道南・津軽では前年並みで近年平均を下回る。
- ・ 本州北部日本海では前年並みで近年平均を下回る。
- ・ 西部日本海では前年を下回り、近年平均並み。
- ・ 沖合域では前年および近年平均を下回る。



出典：2022年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>1)</sup>

☞ 近年平均は最近5年間(平成29年~令和3年)の平均、前年は令和3年を指します。

#### 日本海スルメイカ漁況予報の概要

2022年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表1のとおり5つの海域ごとに来遊量・漁況および漁場が予測されています。予報内容は、次の4つの情報に基づいています。

- (1) 令和4年1月~6月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過
- (2) 令和4年6月中旬~7月上旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果
- (3) 冬季発生系群を主体とした太平洋側のスルメイカの入遊状況<sup>2)</sup>
- (4) 漁期前半(令和4年7月中旬~9月)の海況予報<sup>3)</sup>

表1 2022年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	今期前半は前年並みに少なく、近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年並みで近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年並みで近年平均を下回る	漁場が形成されるが、近年と比べて散発的
西部日本海	福井県～長崎県	前年を下回り、近年平均並み	近年同様、漁場が形成されにくい
沖合域	北海道西沖～大和堆周辺海域	前年および近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については、国立研究開発法人 水産研究・教育機構が発表した「2022年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>1)</sup>」をご覧ください。

#### (i) 西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海では10月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となります。ただし、近年は10月～12月の南下群の来遊は少なく、漁場が形成されにくい傾向が続いています。

本海域では6月の漁獲は前年を下回り、近年平均並みでした。今期後半（10月～12月）の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（釣機1台1時間あたりのスルメイカ採集尾数の平均値）は前年を下回っており、沖合からの来遊量は前年より少ないと予測されています。以上のことから、今期全体としての来遊量・漁況は前年を下回り、近年平均並みで、近年同様、漁場は形成されにくいと予測されています。

#### (ii) 沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）

沖合域では従来、6月～12月にかけて大和堆周辺海域に、水温の高い8月下旬～9月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、2000年代以降漁場が北偏化し、8月～11月は主に北海道西沖に漁場が形成され、大和堆周辺海域では6月～7月および11月～12月に漁場が形成される年が多くなっています。さらに2019年（令和元年）以降は、これまでと傾向が異なり、大和堆や北海道西沖で漁場が安定して形成されず、能登半島周辺や佐渡沖が主漁場となる場合があります。

日本海スルメイカ漁場一斉調査における本海域の平均CPUEは前年を下回り、前年に見られたような、CPUEがきわめて高い調査点も見られませんでした。以上のことから、今期の本海域への来遊は前年および近年平均を下回ると予測されています。また、同調査での北海道西沖の分布量は前年並みに少なく、大和堆周辺海域も前年のような高密度の分布が見られなかったことから、沖合域は全域で漁場となりにくいと予測されています。

## 島根県沖での漁況の経過と今後

主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣り漁業（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。令和4年1月～6月までの水揚量は129トンで、同期間で比べると、前年（164トン）および近年平均（143トン）を下回りました（前年比78%、平年比90%）。

8月～12月の予報期間における島根県沖での主な漁場形成の時期は、従来の漁獲パターンから判断すると10月以降になると考えられます。今回の予報では今期後半（10月～12月）の西部日本海では、来遊量は少なく漁場も形成されにくいと予測されています。したがって、今後の島根県沖でのスルメイカ漁況は、平成21年以降（図2）と同様に低調に推移すると考えられます。

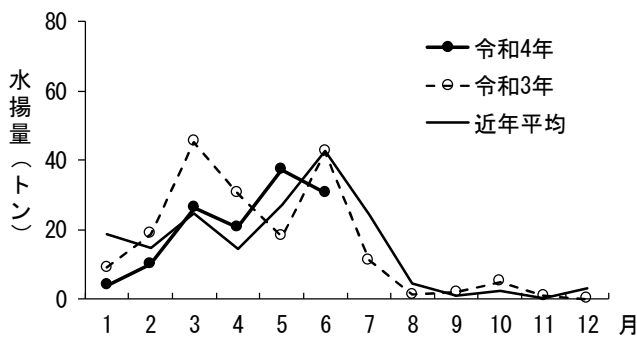


図1 主要3港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

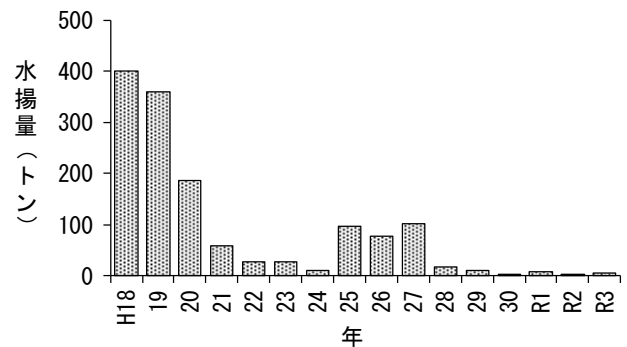


図2 主要3港（浜田、恵曇、西郷）における10月～12月のスルメイカの年別水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

### ※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2022年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報」令和4年7月29日 ([https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20220729\\_srm-n/20220729press\\_srm-n.pdf](https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20220729_srm-n/20220729press_srm-n.pdf))
- 2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2022年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報」令和4年7月29日 ([https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20220729\\_srm-t/20220729press\\_srm-t.pdf](https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20220729_srm-t/20220729press_srm-t.pdf))
- 3) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2022年度 第2回 日本海海況予報」令和4年7月8日 (<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20220708/20220708press.pdf>)